管理ツール(の使い方)

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 山内 拓磨

すでに出ているSlack-Trello-GitHubで行いたいことは実現できると思ったので、その使い方を調べることにした。

1. Slack

様々なツールと連携することができ、その通知を受け取れる。

チャットでコミュニケーションをとることが可能

1. Trello

１つのタスクをカードとして扱い、それをボードで管理する。

ボードにはリストが存在し、カードはそのどれかに所属する。これによってそのタスクが今どの状態にあるのかを表現できる。

カードの状態が変わる場合には、ドラック＆ドロップで動かすことができる。

各カードにはそのタスクを行うメンバー、締め切り、ラベルなどを設定することができる。

ラベルを設定することでプロジェクト全体として、そのタスクがどの位置づけにあるタスクかといったようなことを表現することも可能。

1. GitHub

ソースコードを管理するためのサービス。

バージョン管理も可能。ドキュメントも置ける。

階層化してファイルを管理することができる。

リポジトリというファイルやディレクトリの状態を保存する場所がある。

それには各々のマシン上にあるローカルリポジトリとネットワーク上にあるリモートリポジトリの2つがある。

基本的にはローカルでファイルなどを作成・編集し、それをリモートへアップロードする。

git initコマンドでローカルのカレントディレクトリをgitリポジトリに変換する。

ファイルを作成・編集・削除を保存する場合には、まずインデックスにファイルを追加する。インデックスとはコミットの準備として使いされたファイルの変更内容を保存する場所。コマンドはgit add *file\_name*。

インデックスに追加されたファイルをコミットすることでファイルやディレクトリなどの追加・変更などがローカルリポジトリに記録される。この時、変更点などをコメントで書き込むことができる。コマンドはgit commit -m ”*comment*”。

git statusでリポジトリを確認できる。

git remote add origin *URL\_of\_remote\_repository*でリモートリポジトリの情報を追加。

git push origin *branch\_name*でローカルリポジトリでの変更などがプッシュされ、リモートリポジトリ上へ反映される。

git branchで現在のブランチを一覧で表示できる。

git branch *branch\_name*でブランチを追加

git check out *branch\_name*でブランチの移動ができる。

リモートリポジトリの変更を取り込むためには、まずその変更が行われたブランチに移動して、それからgit pullでそのブランチのファイルを取得することができる。

あるブランチs1をmasterに取り込ませる場合には、まずmasterへ移動して、それからgit merge s1とコマンドを入力する。

一般的には新しいブランチで新機能を実装し、そのテストが完了すればメインのブランチにマージさせるらしい。

ざっくりと使い方を調べたが、実際に動かしてみていないので理解ができていないところもあると思うが、何となく流れはつかめたと思う。